

第2回熊本市景観審議会景観計画改定専門部会（要旨）

日時 令和5年(2023年)2月13日（月）午後2時00分から5時00分

場所 市民会館シアーズホーム夢ホール第6会議室

出席者

（委員）星野部会長、田中委員、原田委員、小島委員、岩橋委員、吉村委員、森岡委員
（事務局）都市デザイン課 粟田課長、松永課長補佐、高城主査、加藤参事、大塚 行政実務研修員

[現地視察]

桜井通り（長崎書店南側）、KKR ホテル熊本付近

【議題】

[審議事項]

熊本市景観計画改定の骨子案について
市民アンケート調査結果について
現熊本市景観計画に係る施策実施状況調査
熊本市景観計画改定骨子案

[報告事項]

- ①今後のスケジュールについて
- ②講演会等の開催について（案）

【概要】

[現地視察]

桜井通り（長崎書店南側）、KKR ホテル熊本付近

市民アンケートから得られた熊本城を望む視点場候補の内、桜井通り（長崎書店南側）、KKR ホテル熊本付近を現地視察し、感想及び意見を頂いた。

■景観計画改定専門部会での感想及び意見のまとめは以下のとおり。

- ・現計画に掲載されている、長堀を眺める既存の視点場からの写真は、長堀のみを写しているが、視点場からの眺望景観は周辺の街との関係が大事であり、視点場の設定の在り方について再考する必要がある。
- ・視点場から見える周辺の建物が今後変わることも想定して、視対象の範囲を明確に設定する必要があるのではないか。
- ・範囲については、角度を一義的に設定すると漏れが出てくる。
- ・道沿いなどで風景が変わって行くのが楽しい視点場と、突然ぱっと視界いっぱいに見える迫力ある視点場などがあるため、視点場の分類を丁寧に行って頂きたい。

■主な質疑応答については、次のとおり。

(委員)：眺望などは守るべき所とそうでない所もあるだろう。熊本城を眺める視点場は大事であるが、熊本城と商売はあまり関係ない。熊本城の観光客は中心市街地にほとんど来ない。

(委員)：観光客150万人が商店街へ向かわないことは勿体ないことである。シンボルロードと通町筋など、天守閣がしっかり見える所を守っていければいい。

(部会長)：景観計画だけではなく、熊本市の施策としてウォークブルや、お城を見に行く人が街に足を運ばないといった課題に複合的に取り組むべきである。

(委員)：長堀だけでなく周辺の街との関係が大事なので、長堀と周辺の町を同時に視対象としてとらえる必要があることを現地に行って強く感じた。

(部会長)：お城が見えるかどうかだけではなく、お城と周りの街並みを合わせて考えるようになっていきたい。

(委員)：視点場候補の周辺には古い建物も多く、今後売却されたりして建て替わる可能性もあるため、視対象の範囲をしっかりと設定したほうがいいのではないか。

(部会長)：視点場からの角度を一義的に設定すると漏れたりするのでよくない。

(委員)：KKR 辺りは、天守閣をしっかりと見るというよりは、道路がカーブしながら石垣が見えてくるといったシークエンスに近い見え方。長崎書店も立ち止まって見る場所がなく、歩きながら見る場所であることを再認識した。

(部会長)：実際にまちづくりや今後の開発にどう影響するかを想定しながら、視点場の分類を丁寧に行うとよい。例えば、道沿いなどで風景が変わって行くのが楽しい視点場と、突然ぱっと視界いっぱいに現れる迫力ある視点場を分けること。具体的には、長堀やKKR前などのお城の道沿いを歩いて景観の変化を楽しむものや、通町筋や長崎書店のような見通しの延長にある視点場など。市役所前は視野が広いのが魅力的なので60度に設定するのはよくない。実効性高く分類をすべき。

【概要】

[審議事項]

熊本市景観計画改定の骨子案について

事務局から、市民アンケート調査結果、現熊本市景観計画に係る施策実施状況調査、熊本市景観計画改定骨子案についての説明後、審議を行った。

■景観計画改定専門部会での意見のまとめは以下のとおり。

- ・色彩については、単にカラフルがダメとかではなく熊本市としての景観形成の考え方がしっかり伝わるよう整理することが大事。
- ・公共施設の景観に配慮した取組についてはチャレンジになるので、改定の中で議論していく必要がある。景観重要公共施設の対象に市電が位置付けられたらいい。
- ・市民アンケートをどう計画に反映させるか体系的に示してほしい。今回の改定では、地域拠点、生活景、身近な景観を重視できるとよい。

- ・市民との協働の内容や、身近にある良好な景観に気づくための視点場の設定や考え方の提示も必要。視点場の定義や視点場が機能する掲載の仕方、アイレベルからの景観形成のありかたについても、視点場の概念がしっかり使えるようにしたい。
- ・夜間景観については、景観形成の基本方針等に示すことを検討していただきたい。

■主な質疑応答については、次のとおり。

○景観シミュレーションについて

(委員)：通町筋のシミュレーションについて、過度な色使いは推奨しないとあるが、左側の写真は、熊本市が目指す景観なのか。街並みの個性として考えると、穏やかな色彩を用いているのが、熊本市や熊本城がきれいに見える姿であるかは一概に言えない。推奨する色彩としていかがなのか？

(事務局)：基本的に建物の壁の色は推奨色に合わせている。屋外広告物は、この地域は規制が緩く、面積以外規制はないが、建物の壁の色彩基準の推奨色に合わせている。現行計画では、屋外広告物に関して、突き出し看板を無くすことや、色を推奨色に合わせるようなルールは無い。

(部会長)：景観計画は、市民や事業者へ理解してもらうことが大事。カラフルな色彩がだめという理解を得にくい。こういう街にしたいという景観特性、景観方針を理解して頂いた上でやっとならぬより左写真がよいと納得される。また、写真の例は、インパクトが大きいので、そういったグレードがわかるようにしておく必要がある。

○景観重要公共施設について

(委員)：公共施設の指定方針は既にあるのか？

(事務局)：指定方針は既にある。実際に指定されている物件はない。

(委員)：市電は道路に含まれるのか？また、景観重要公共施設の対象になるのか。車両だけでなく、例えば電停の屋根とか時刻表、サイン、路線図など、どこまで対象に含まれているのか？

(事務局)：公共施設であるのは間違いないが、電停は対象にならないと思われる。車両のデザインは屋外広告物の対象にもなっている。既に交通局とも色やデザインの景観調整をしている。

(部会長)：実態はそうかもしれないが、仕組みとして位置づけられることが必要である。市電が景観重要公共施設の対象になるか研究していただきたい。

○市民アンケート結果について

(委員)：市民アンケートの結果を踏まえて、見直す項目は他にあるか。アンケート結果の計画への反映は？

(事務局)：アンケート問19の「熊本市が今後力を入れるべきこと」について、1位は「緑や水辺など自然が感じられるまちづくり」、2位は「ゆとりと賑いを感じられる、歩きたくなる街なかづくり」、3位は「公共施設のデザインを優れたものにする」

だった。緑や水関係については来年度森の都推進部ができるし、市民アンケートやワークショップでも緑に関する意見があり、街なかづくりに関してもウォークブルの取組を少しずつではあるが進めている。問18のまちづくりに関しても、協働の取組との結果を踏まえて、第8章の「市民との協働」に反映させたい。問15はこれからクロス集計結果によってどう反映させるか考える。

(委員)：市民説明のためにも、計画への反映を体系的に整理してほしい。問10の水前寺、江津湖、電車通りの評価が低いエリアをどうするのか、例えば視点場の設定を強化するなど、ご検討いただきたい。

(委員)：問10は評価が低いというよりは、水前寺周辺、江津湖周辺、電車通りは、あまり変化がないという意味で、悪くなったわけではないと思う。熊本城や熊本駅周辺はこの10年で大分変わったから、良くなったと感じられたのだろう。

(委員)：確かに悪いとはっていないが、問6では住まい周辺を自慢できる人が少ないので、考えてもらいたい。

(部会長)：市全体の評価はよいが、暮らしに近づくとも評価が低いという集計結果に対しても、改定の中で何か対応する考えはあるのか？

(事務局)：目立つ熊本城周辺などに比べ生活圏が弱い。景観形成の理念にキーワードとして「地域と共に」を入れており、各地域や地域拠点の景観について、住民が主体的にルール作りをやっていくことなどを書き込むことが考えられる。

(委員)：アンケート問7、問9を人数で比べると、ポジティブな答えは半分以上あり、ネガティブな人は若干である。ネガティブに焦点をあてず、ポジティブな方をもっと良くしていければいいのでは。

(部会長)：アンケートのグラフの読み方として大事なご指摘。計画を立てる立場とすると、安心はできない。これをどう維持していくかが大事である。
アンケートの結果を景観審議会で報告される際、要点の概要をご説明頂きたい。

○身近な景観について

(委員)：単に協働の仕組み作りだけで終わらせるのではなく、公共の部分は公共で、民間の部分は民間で、一緒にやることに意味がある。そういうメッセージを伝えるべき。

(委員)：市民が身近な部分をしっかり見るように、環境アセスメントのようにチェックポイントをあげて、景観の良いところを見つけやすくしてあげるとよい。第8章の市民との協働に入れて、景観に対する理解を深めてもらうようにすることが必要。

(委員)：身近な場所にもいい風景があることを意識する必要がある。改定の重要なポイントにしたい。

(委員)：眺望として大事な視点場の話と、それにプラスして身近な視点場の話と、両方を整理して取り上げたほうがいい。

(部会長)：景観計画の構成に関わる提案であるが、視点場については重点地域の冒頭ではなく、もうひとつ前を出す。例えば、「ゾーンと軸と地域拠点の～」など、全体に関わるような所に出してもいいかもしれない。お城を中心にしたわかりやすい視点

場は当然として、暮らしの景観の質を上げていくような掲載ができれば、すごくいい改定になる。

(事務局)：視点場という言葉を使うと混乱しやすいので、眺望景観の視点場の話と、例えば身近な歩道から見た街並みといった生活圏の話と分けた方がいい。

(委員)：分けていいと思う。地域の身近な景観についても何か考え方を示せばいい。

○視点場の定義や指定の考え方について

(委員)：資料3の12ページ。視点場の定義について。視対象は、主対象、副対象、対象場の3つによって構成される。それを見ている自分の目が視点。その目が置かれている場所が視点場。12ページには「主たる視対象が、遠景または中景であること」とあるが、近景を含めた構成にするとか。視点場の定義が全国で共有されているものがあるので、それを踏まえた上で整理をしてほしい。

(部会長)：現行計画では、視点場がポイント（点）として地図に落としてあり、見る方向を矢印で示すなど、限定的な視点として扱おうとしているが、視点場は、視点の近傍の空間を含めた場、視点を含むまとまりある環境の在り方を言っている。そうすると道上の一点ではなく、道全体が視点場にもなったりする。KKRホテル付近は近景の石垣の迫力が大切であるし、指定条件に近景を抜くことはどうかと思う。

(委員)：花岡山、本妙寺からの眺望は、遠景であり、スカイラインの話になるが、今日見て回ったような場所のように、もっとアイレベルから見た考え方を示す必要がある。

(委員)：現行計画に視点場の考え方が書いてあるが、これをどう扱うか、これを見た人が何を気にしなければならないのか、計画にあまり書いていない。例えば視点場付近の建物が建て替えられる場合、事業者が視点場のことを気にしてくれないと意味がない。屋外広告物や高さなどの規制に複合して、視点場がどう関与してくるのか。視点場を意識させるには曖昧な印象を受ける。

(事務局)：現状ですと、現行計画33ページの景観形成基準の位置・高さに関わる程度しか示されていない。

(委員)：現行計画の40ページ左下に「シミュレーションを出す」とあるが、市がシミュレーションでチェックしているのか。

(事務局)：地域で推奨する色彩以外を使用する場合に限る。

(委員)：指定された大事な視点場であるから、何か行為をされるときに問題ないか行政がチェックして進めていくのが一般的か。

(事務局)：その通りである。年間で大規模行為の届け出は300件ほどある。

(委員)：その中で視点場に影響が出るものを（シミュレーション）対象にするとか。

(事務局)：現行計画の40ページ。視点場に限らないが、建物の位置を後退させることで熊本城への眺望への配慮に努めることは書いてある。

(部会長)：指定された視点場に関わるものについては、もう少し課せる仕組みがあるといい。

(事務局)：シミュレーションも金額がかかるので、事業者の負担を少なくしたい。

(部会長)：視点場に指定する以上、景観形成基準の中で機能するように位置づけるべきというご意見。

○夜間景観について

(委員)：夜間景観については、資料13ページの一番下にある、「光のマスタープラン」に沿ってということか。昼間よりも重要度が低いのか。

(事務局)：夜だと光を発していない周辺からは見えないこともあり、基本的に道路、公園の照明、沿道の家の漏れ出る光については照度合わせるとか。また、夜間景観の視点場があるかというとは今はない。

(部会長)：夜間景観については、実務的な所だけではなく、方針等にもう少し記載することも検討して頂きたい。

【概要】

[報告事項]

①講演会、第1回ワークショップ実施状況および今後のスケジュールについて事務局から実施状況及び今後のスケジュールについて報告を行った。

■主な質疑については次のとおり。

(委員)：ワークショップの次回(2回目)のテーマは？

(事務局)：「熊本の景観をより良くするアイデアを考えてみよう」

(委員)：3回目は？

(事務局)：「熊本市の景観の未来を考えよう」

②くまもと景観 photo&movie コンテスト 2022 結果について事務局から結果報告を行った。

■主な質疑については次のとおり。

(部会長)：少し応募が少なかった印象。今後も継続していくのか？

(事務局)：今回は初回であり、やり方を模索している。来年度はやり方を工夫して一般の方が参加しやすいようにする。今回の目的は熊本市の景観のイメージの場所を集めることで、各区で我々も知らないような場所が出てくることを期待していた。改良しながら来年も続けていきたい。

(委員)：できれば身近な景観をテーマに設定するとよい。テーマ設定とメッセージの伝え方で大分変わるだろう。

(事務局)：身近な景観をテーマに設定すれば、地元の人しか知らない景観を挙げてもらえる。

(部会長)：ぜひ続けてほしい。

以上